

第3学年 社会科学習指導路案

教科等	社会科	単元名	府中市のうつり変わり	本時	全18時間扱いの6時間目
学級	3年5組	授業者		教室等	3階 3年5組教室

<本時の指導>

<本時のねらい> 府中市を通る鉄道の変化した理由について、資料を基に自分の考えをもつことができる。	
	<p>主な学習活動【4つの視点】 主な発問:T 予想される児童の反応:C</p> <p>○研究主題にせまる6つの手立て □…指導上の留意点 ☆…評価 ※UD</p>
導 入	<p>1. 前時の振り返り T:土地の利用の仕方はどう変わっていききましたか? C:人が暮らすために、田畑が減りました。 C:駅の周りに建物が増えました。 C:工場やお店で働く人が増えました。</p>
	<p>2. 京王線の昔と今の写真を比べる。【表現】 T:昔と今の府中駅はどこが変わっていますか。なぜ、変わったと思いますか。 C:昔は1両で走っていたし、ホームも1つしかなかった。 C:今は、10両編成で、ホームは2つある。 C:線路の数が、昔は1本だったけど、今は4本もある。 C:乗る人が増えたのかな。</p> <p>府中市を通る鉄道は、どうして発展していったのだろう。</p>
展 開	<p>3. 鉄道が発展していった理由を考える。【対話】 T:鉄道が発展していったきっかけを資料を見て予想しよう。 C:昭和5年より昭和49年の方が「家の多いところ」がたくさん増えているから、府中に住む人が増えた。だから、鉄道が発展したのかな? C:昭和49年で空き地だったところに、工場ができたよ。府中で働く人が増えたんだね。</p>
	<p>4. 話し合ったことについて、全体で交流する。【対話】 T:資料を見て、予想したことを発表しましょう。 C:工場や会社が増え始めて、その人たちが通いやすいように電車がが増えていったと思う。 C:府中に住む人が増えたから、車両の数や電車の本数が増えたと思う。 C:速く、安全に人を運ぶために、鉄道が発展していったと思う。</p>
	<p>5. 個人で予想を立てる T:みんなで考えたことをもとに、何をきっかけに鉄道が発展したのか予想を立てよう。</p>
終 末	<p>6. 授業の振り返りをするともに、次時はさらに資料を見て、府中の鉄道が発展した理由を調べていくという見通しをもつ。</p>

【板書計画】

府中市を通る鉄道は、何をきっかけに発てんしていったのだろう。

1両へんせい 線路1本 ホーム4つ
10両へんせい 線路4本 ホーム4つ 特急・各駅

家の多いところが増えた⇒府中に住む人が増えた

空き地だったところが工場になっている⇒府中で住む人が増えた
府中駅の周りは、商店や会社・倉庫がたくさん⇒はたらく人や買い物にくる人がいる
けいば場や公共しせつなどが増えた⇒よりよくなる人がくる

100年で大きくへんか どうして?

【研究主題にせまる6つの手立てとの関連】

(1) 「自分の考えを言葉で表現する」ための手立て

話題設定の工夫

児童にとって身近な府中駅が100年近くで大きく変わったことを捉えさせる。そのために、昔の写真は、「一両・線路が1本、ホームが1つ」であり、現在の写真は、「十両・線路やホームが4つ、特急が通っている」というところにも着目できる資料を提示する。そこから生まれた児童の「疑問」や「気付き」を生かしながら、追究する問題を設定する。

(2) 「学び合う」ための手立て

意図的にグルーピングされた小集団での交流活動の設定

本学級の児童の中には、小集団の中でなら自分の思いや考えを伝えられる児童が多いため4人1組の班をグルーピングする。編成する際は、人間関係や社会科の学習状況を考慮して行う。

交流の目的と視点の明確化

「自分自身の予想を深めたり、広げたりするため」という目的と、「資料のどこから考えたことなのか」と「互いの考えを聞いて、考えをつなげたり広げたりしていくこと」を視点とする。